

逗子のチャンス。



# オンリー逗子。

逗子という場所でしか  
できない発展をめざしたい。

桐ヶ谷さとるが考える市政について。

【桐ケ谷のビジョン】

# オンリー逗子。

山と海の自然に恵まれながら、時代の空気もしっかりと感じ取れる場所。都心に暮らす人たちがちょっと羨むような生活空間。逗子は、他にはなかなか見当たらない素敵な街。だからこそ、いま一度その魅力を最大限に引き出しつつ、斬新な発想とユニークなアイデアを絡めて、10年後、20年後、30年後に続くオンリーワンの街づくりをめざします。



## 財政再建

市民へのさらなる負担は回避  
削減された行政サービスの復活

【桐ケ谷のファーストステップ】

### 財政構造の転換

経営感覚を活かした  
歳出削減と歳入増加

稼ぐ自治体へ

### 企業誘致と 起業支援

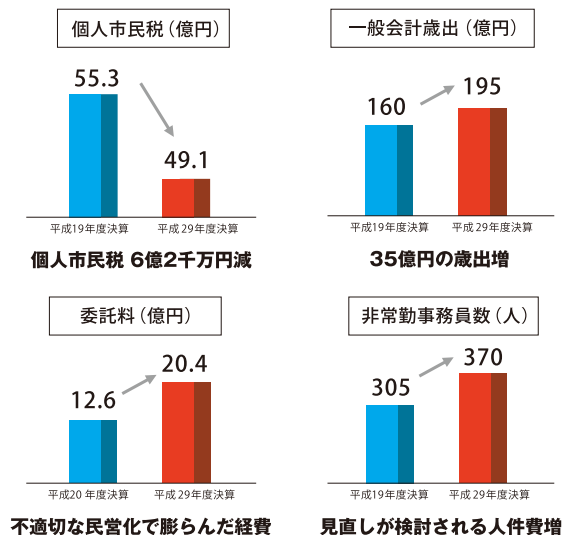
雇用の創出、  
新しい働き方

**ビジネスセンス**を活かし、  
**2年で答え**を出します。

# 逗子はいま、ピンチです。

歳入は減り、歳出は増えるばかり。

この10年、人口減少は加速し歳入は個人市民税6億2千万円減。逆に、箱モノ行政で、歳出は35億円(160億から195億円)増加。人件費も増大し続け、非常勤職員は370人に(年間5.7億円)、民間委託化でも、委託料は12.6億円から20.4億円へ増加。逗子市の財政は**危機的状況**にあります。



## しかし、この危機こそ、財政再建の絶好のチャンス。

### 【歳出削減】ムダを排除する徹底的な見直し。

■市内2箇所目のドッグランが含まれる「池子の森自然公園整備事業」の見直し。

残予算4億円を子育て支援へ積極投資。

■公園や体育館等の指定管理者制度を改め、民間貸付で利益を生む構造へ。

■行政全体で事業コストを精査。

同時に、人材を合理的に再配置し適正な人件費を市長報酬も含めて試算します。



### 行政サービスの復活と拡充

●図書館の開館時間延長 ●児童の交通安全対策 ●子供プール無料券の再開 ●高齢者センターの浴場を速やかに再開 ●逗子海岸花火大会の継続など、削減されたサービスを復活させ、新しい行政サービスも遂行できる、適正な財政構造へ転換できるのです。



### 【歳入増加】歳入を増やすユニークなアイデア。

■まんだら堂や古墳など維持管理費の充実に市外の方からの料金徴収を検討。

■ふるさと納税額5億円を目標に、魅力あふれる返礼品の開発チームを設置。

その他「寄付」など柔軟な手法を導入します。

■逗子にふさわしい企業を誘致し、税收バランスを整える。

逗子にゆかりのある、逗子にふさわしい企業の誘致のためにトップセールをかけます。

いきなり従業員まるごとの移転は困難でも、登記簿上の本社機能の移転や

空き家を利用した各業界のフラッグシップになるオフィスを構えていただこうと考えています。

現在、市民税は個人49億円に対して法人はわずか2.4億円。

この税收のアンバランスを是正するためにも、誘致した法人からの税收を増加させ

安定的な財源確保をめざします。同時に、こうした企業誘致によって市内の働く場を増やし、

人口流出・減少の抑制を図ります。さらに、新しい企業と地元企業との積極的な交流も奨め、

市全体の経済の活性化をめざします。

# 「企業と起業」で、 安定財源へ。



## ● 逗子にふさわしい企業誘致のためのプロジェクトチームの発足。

積極的な企業誘致を行ない法人市民税の増収と、若い世代を移住させて税収を上げることを考えています。

しかし、逗子には大型の工業団地や物流センターに適した土地はありませんし、市民のみなさんもそうした箱モノの誘致は望んでいないはずです。

他方で、逗子には日本有数の企業経営に携わってきたトップマネジメントの方々やOBのみなさんがたくさんいらっしゃいます。そこで、そんなみなさんの知識・経験・ネットワークといった力をお借りして、**企業誘致プロジェクトチーム**を発足。



逗子にふさわしい誘致企業をリサーチ、セレクトして、桐ヶ谷さとり自身が先頭に立ちトップセールスマンとして各企業へアプローチ。

逗子からこれまでにない新しいビジネスモデルを展開させます。

## ● 逗子ブランドの魅力を活かせる人たちの起業支援を整えます。

交通至便で東京都心にも程よい距離でありながら、海と山のおだやかな自然に恵まれた環境。そんな逗子に魅力を感じ、この街で働きたいと起業する人たちを全面的にバックアップして、新しい産業構造を構築して、まちや地域経済の活性化を図ります。

例えば、**コ・ワーキングスペース**(机や椅子、ネットワーク設備などビジネス環境を共有しながら働く場所)の開設サポートや、**ビジネスマッチング**などにつながる情報共有の場を設けたり、街全体で「職」「住」一体となる働きやすさ暮らしやすさをアピールして、「逗子ブランド」というビジネス文化の土壌を築き、さらに生産人口の流入を促進します。

## ● 女子力を逗子力へ。すべての女性の「働きたい」に応える活躍の場を。

企業誘致と起業支援によって、子育て中や子育てに一区切りついた女性たちの社会復帰や「働きたい」という思いに応え、家計と生きがいを充実させ、街の生産性を向上させます。まさに**女子力から逗子力**をアップさせます。

# 子育てしやすい 環境へ。



## ●隠れ待機児童ゼロへ、保育園誘致促進と学童保育拡充へ。

■働くパパとママを応援！ー 待機児童対策（保育園誘致促進と学童保育拡充）。

3年連続の待機児童、もう育休延長できず退職を迫られるとの切実な声も届いています。働く子育て世代への対策は急務で、保育園の誘致促進と学童保育の定員拡充を図ります。また、各家庭の必要に応じた時間延長も検討します。

■逗子駅前保育ステーションの開設。

通勤者の多い逗子市の現状に合わせ、受渡しに便利な逗子駅前保育ステーションの開設をめざします。

■小児医療費助成を高校3年生まで拡充。

近隣市町では中学校3年生まで拡充済みで、現在の小学校6年生から高校3年生まで拡充します。

■中学校給食を小学校と同じ配食方式へ（不評のボックスランチは廃止）。

不味い、冷たいと不評のボックスランチを廃止し、小学校と同様の配食方式を採用し温かい給食を届けます。

## ●県下1位の学力向上をめざして。

■ICTを活用した放課後学習支援を導入します。

個々の分からないに対応した学習環境の提供が必要で、ICTを活用した放課後学習支援を導入します。

■子育てバウチャーの導入。

塾やベビーシッターなどに利用できる子育てバウチャーを導入します。

■自治体奨学金の導入（教育ローンに活用）。

教育ローンとして活用できる自治体奨学金を導入。

これまで経済的理由により諦めていた高等教育の道を拓きます。

■子育て世代の住宅取得支援（フラット35子育て支援型地域活性型）。

子育て世代の定住を促進するため、住宅所得に対する助成をします。



## ●空き家バンク創設で、子育てファミリーを応援。

市内に約2700件に上る空家を、子育てファミリー応援住宅やコ・ワーキングスペースへ活用するために、民間と連携し空き家バンクを創設し街の活性化につなげます。

# 健康で安心して 暮らせる社会へ。



## ●高齢者の方々が安心して暮らせる街へ。

高齢者や障がいを持った方など、支援を必要とするすべてのみなさんに対応していける場所や仕組みを築き、いつでも健やかに過ごせる街づくりを行ないます。

■「転ばぬ先の手すり」として、家や街に手すりを積極的に設置します。

■お困りの方の相談にいつでも応じることができる「福祉安心窓口」を設置します。

■高齢者パスで外出をサポート。バスに乗ってどんどん出かけましょう。

動くことは、体と心の健康につながります。

一方、具体的な介護対策と福祉施設の充実としては、

■高齢者のみなさんの元気の源になる高齢者センターの浴場を速やかに再開します。

■保健・医療・福祉の連携をもとに、グループホーム増設を含めた総合的な認知症対策を推進します。

■見守り体制の充実を図り、ひとり暮らしの高齢者の安心を徹底的にサポートします。

■入居待ちを解消するため、特別養護老人ホーム増設をします。

## ●健康寿命を伸ばし、医療費を削減。

いつまでも自分らしく過ごすため、健康寿命を伸ばすことが必要です。

筑波大学との連携をはかり、健康アンバサダーを導入。

寝たきり予防や生活習慣病予防のための健康運動教室を開催し、

寝たきり防止と健康寿命を伸ばす指導を行なうことで医療費削減につなげていきます。

また、高齢者の方々が家に引きこもらないように、

逗子文化プラザなどをコミュニティとして活用。人との交流で笑顔を生み、

心の健康から体の健康へつなげる施策を行ないます。

## ●総合病院誘致について。

病診連携は不可欠なことから、しっかりと「医師会との連携強化を図ります」。市民が望む病院を実現するには、公募条件を後退させてはいけません。財政負担の軽減を図るためにも、現在進められている計画の見直しを図ります。



# 大規模な自然災害への 備えと危機管理。



## ●民間との連携による避難所の拡充。

高齢化率31%の逗子にあって、高齢者のみならず障がい者、子どもなど災害弱者がムリなく移動できる避難所の整備が必須と考えます。

市内5つの小学校区にある避難所を現在の1か所から2か所へ増設。

民間所有の建物を避難所に指定することでより自宅から近い場所に避難することを可能にします。県下初となる女性や子ども専用の「母子避難所」を設置し、安心して避難生活を送れる支援体制を構築します。

## ■被災時の女性専用・母子専用避難所の重要性。

他の人の目があり授乳がしにくい、「夜泣きがうるさい！」と他の避難者から怒鳴られる、子どもが走り回り文句を言われる、配布されたおむつのサイズが合わない、など。

特に小さい子どもを抱える母親にとっては、老若男女が入り乱れる避難所は非常にストレスの多い環境です。

さらに、着替えができない、洗濯物が干せない、トイレが男女兼用で使いにくい、夜間も人の出入りが自由のため心配で寝られないなど、女性ならではの問題も多々あります。逗子の万が一に、「女性専用・母子専用」の避難所の設置・拡充も必須と考えています。

## ●自然災害に備えるインフラ整備。

自然災害の頻度、脅威が増す中で、市内の危険箇所の総点検を徹底します。

従来の想定を超える暴風雨の頻発に対応できるよう、河川の氾濫への対策、下水道処理能力の検証、急斜面などがけ崩れの危険がある場所を明記したハザードマップを改定し、危険度に応じた改修工事など迅速に対応できる体制強化をはかります。

## ●3.11を教訓に。防災サミットの開催。

有事にも「災害に強い逗子」へ、被災地の事例をしっかりと学び対策を図ります。

そこで、陸前高田市等と姉妹都市締結をめざし防災教育を推進します。

また防災に対する有効な取組事例の発表会や表彰などを行う「防災サミット」を開催。

防災に対する意識の向上をめざし、減災対策の推進を図り、

自主防災組織の育成強化に努めます。

# 魅力あふれる、 にぎわう街づくり。



## ●他では体験できない「活気あふれる漁港タウン」をつくります。

小坪漁港エリアの活性化をめざし、日本国内のみならず、広く海外へもアピールします。地元の雇用も創出できる民間企業を誘致して、「漁村」と呼ばれるエリアごとリノベーションして、昔ながらの「漁師飯」を食べられるお店からイタリアンやおしゃれなカフェまで、他では体験できない「活気あふれる漁港タウン」をつくります。オリンピック時に導入されるシーバスなどの海上交通をそのまま継続利用して、江の島から小坪～逗子海岸まで新しい人の流れを生み出します。



## ●魅力あふれる逗子駅前～バランスのいい街づくり。 東逗子駅前空き地の有効活用。

高齢化で買い物難民になりつつある高齢者のため、駅から離れた戸建てから駅前のマンションへの住替えのニーズが多くあります。高齢者の住替えに積極的に対応するため、駅周辺をはじめとしたバランスのいい街づくりを進めます。東逗子駅前空き地の有効活用に関しても検討を重ね、将来を見据えた計画的な街づくりを推進します。



### 桐ヶ谷さとるプロフィール

#### 【経歴】

昭和24年3月24日生 立教大学経済学部卒業  
株式会社 キリガヤ 代表取締役

前逗子市観光協会会長  
前逗子市商工会会長  
みんなががんばろう 逗子PROJECT 会長  
(東日本大震災の復興支援活動)  
前みんなで作る逗子海岸花火大会 実行委員長  
前生ごみ減量プロジェクト「キエーロ」推進責任者

#### 【家族】

妻、長男、次男、孫4人



震災を忘れない!  
陸前高田市にて  
復興支援継続中

発行：「逗子のチャンス」桐ヶ谷さとる後援会  
住所：〒249-0006 逗子市逗子5-3-36  
TEL：046-870-1400 FAX：046-872-1117  
E-mail：info@kirigayasatoru.net

桐ヶ谷さとる公式ホームページ  
<https://kirigayasatoru.net>

逗子のチャンス

検索

